

# キーワードは “感謝” と “思いやり”

～身近なことから男女共同参画社会を考える～

「男女共同参画社会」とは、性別によって生き方が決められるのではなく、個性や能力に応じた生き方を選択でき、男女がともに責任も分担する社会のことです。



9月1日、天草市役所で「男女共同参画社会づくり」をテーマに意見交換会が行われました。出席者は男女共同参画審議会会長の丸田光二さん、男女共同参画推進ネットワーク・つんのでネット～風～会長の磨田泰子さん、内閣府男女共同参画ヤングリーダー会議に出席した石井麻耶子さん、家事・育児体験を通して男女共同参画社会の大切さを実感した池田和浩さんの4人。女性を支援する拠点施設の重要性、生活の中で男女共同参画の視点を持つことの大切さなど、さまざまな意見交換が行われました。今号では意見交換会のようすをお知らせします。

## 男女共同参画社会づくりの活動へ かかわるようになったきっかけ

丸田 寸劇を通して男女共同参加を楽しむ、わかりやすく伝える「ジョイナスあまくさ」という団体に誘われたのがきっかけです。その後、県が募集した男女共同参画社会づくり地域リーダー研修に参加し、男女共同参画の大切さを実感しながら、市の男女共同参画審議会会長を務めています。

丸田 寸劇を通して男女共同参加を楽しむ、わかりやすく伝える「ジョイナスあまくさ」という団体に誘われたのがきっかけです。その後、県が募集した男女共同参画社会づくり地域リーダー研修に参加し、男女共同参画の大切さを実感しながら、市の男女共同参画審議会会長を務めています。

石井 2年前に熊本市内から天草へ帰郷しました。友人たちは子育てに忙しく、高校を卒業してすぐに天草を離れたので、知り合いもほとんどいませんでした。天草も合併して変わっていったこともあり、まずは天草のことを知ろうと市のホームページを見ました。そこで、先ほど丸田さんが応募された地域リーダー研修という記事を見つけ、「男女共同参画って何だろう」と興味を持って勉強してみると、知らないことがたくさんあることに気づきました。

一人では何もできないけれども、「With Amakusa」という団体や、つんのでネット～風の会員として活動を見つけ、皆さんと交流することで『知らないことを知る』という経験を積み重ねて

いるところです。

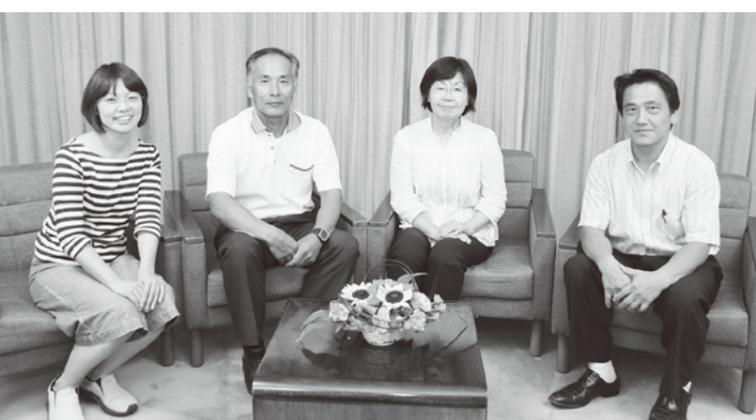
池田 昨年、妻が体調を崩し、長期入院をしました。小学校一年生（6歳）、4歳、2歳の子ども3人の育児と家事を周りの皆さんの協力を得ながら行う中で、男性の育児、家事へのかかわりについて大切なことだと意識するようになりました。このような生活状況の中で、市のホームページを見ていたところ男女共同参画を推進する「つんのでネット～風～」というネットワーク団体を探すことができ、入会させていただきました。

現在の職場が高齢者介護の施設なのですが、高齢者の介護と子どもの育児は通じることがあると思っています。介護、育児、家事の中心は、現在もまだ女性を中心だと思っています。育児休業や介護休暇なども取得者はほとんどが女性です。自分の経験からすると、これまで男性があまり目を向けてこなかったことにも、これからいっと男性が積極的にかかわっていただくことが大切だと思っています。

## 女性を支援する拠点施設が必要

丸田 先ほど、子育てのことで池田さんからお話がありました。私自身、消防士という職業柄、天草管内での異動があります。

平成19年9月29日に行われた男女共同参画推進ネットワーク・つんのでネット～風～の設立総会



男女共同参画社会づくり意見交換会に参加された石井麻耶子さん、丸田光二さん、磨田泰子さん、池田和浩さん（左から）